

(完2、可2)

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
第113回経営協議会議事要録

日 時 令和6年3月15日(金) 13:00～15:30  
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室 (JAIST国際セミナーハウス1階)  
出席者 寺野稔(議長)、永井由佳里、飯田弘之、河野広幸、黒田壽二、細野昭雄、  
井熊均、岩澤康裕、小俣一夫、金井豊、小原奈津子、仲井培雄、中尾正文  
及び永田晃也の各委員  
欠席者 馳浩委員  
オブザーバー 三宅幹夫監事、水野一義監事、神田陽治研究科長、丹康雄副学長、  
水田博副学長、内平直志副研究科長、鶴木祐史副研究科長、小矢野幹夫  
副研究科長、松見紀佳融合科学共同専攻長及び東崎石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和6年11月16日開催の第111回経営協議会の議事要録(案)及び第112回経営協議会(書面付議)議事要録(案)について、資料1-1及び1-2に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

<意見交換>

1 第4期3年目(令和6年度)に向けた取組みについて

永井理事から、新しい研究組織とタスクフォースについて、資料2-1に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- 論文指標を奈良先端大(NAIST)と沖縄科技大(OIST)、金沢大、東工大と比較しているが、  
どういう理由でこれらの大学を選んだのか。

⇒NAISTは構成が似ている大学院大学であり組織の規模も近く、比較するのに適切である  
と考えており、同様の理由でOISTも比較対象としている。金沢大学は距離的に近い国立  
大学のひとつのモデルとして、東京工業大学は本学がもともと設立時の分野が似通って  
いることから対象としている。

⇒NAISTは比較対象としては言うまでもないが、OISTはこれから連携を取っていく中で、  
どういった位置付けになるかということの確認の意味でも比較対象としてあげている。  
指標だけではなく絶対数を見ていく必要もあると考え、金沢大学も比較対象としてい  
る。

- トップ10%論文数について、長期的に見て下がっているように感じるが、どのように評価  
しているのか。

⇒ご指摘のように2000年頃がピークで、その後低下傾向にあるが、それ以降は持ち直して  
きている状況にあると分析しているが、原因までは一概には言えないと考えている。

⇒2016年辺りが底になっており、その後は少し回復していることと、他の要素でもこの後数値が少し上向いてきており、さらに上に向けて行かなければいけないことはもちろん、下がり続けている訳ではないということを理解いただきたい。

・このトップ10%の論文の数やパーセンテージは、日本全体が2004年から落ちている。世界トップというレベルを目指すのであれば、その頃との比較も対象にすれば良いのではないか。

⇒仰る通りで、基本的なレベルを上げていかなければいけないということはもちろん、比較の際にはそういったことも検討する。

続いて、飯田理事から、第4期3年目に向けた取組について～教育・学生支援～について、資料2-2に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

・博士後期課程への厚いケアは素晴らしいと思うが、現在のJAISTのこの事業における博士後期学生の留学生の比率というのはどのくらいか。

⇒今から3年ほど前に次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）で初めての公募が出た際には、我が国のイノベーションに貢献出来る人ということが明記されており、本学の解釈としては日本人学生を主体とするということで選抜を行っていたが、留学生も2割前後採用していた。事業説明会では留学生、特にASEANからの留学生を中心に受け入れることも容認されるような説明もあったので、半分ほど留学生を採用しても問題ないのかと考えて、選抜する予定としている。個人的には出来るだけ日本人学生を採用していきたいという思いはある。

・次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）の採択件数は何件か

⇒採択件数は10件で、後継事業は15件となっている。

・プログラムを特別につくり、そこに学生が入るようなイメージなのか。

⇒配属はあくまで主指導教員の研究室だが、特に重要視しているのが、博士課程の修了者がきちんと産業界等の社会に着地、就職出来るように、注意深くサポートしていくことである。

・選抜の基準というものはあるのか、博士学生の中の何割程度なのか。また、選ばれた学生は、特別な肩書等が与えられるのか

⇒博士後期課程の募集定員は90名で、ここには社会人学生も含まれるので、実際には3割程度の学生が選ばれているのではないと思われる。選ばれた学生を集めた勉強会を毎月1回以上開催する予定としており、以前の事業だとSPRING、JAIST SPRING、JAIST次世代特別研究員制度の研究員等のような肩書を用意している。

・JAIST×Hのプロジェクトの中で掛け算の表示があるが、足し算や並列ではなく掛け算で

あることの意味を教えてください。

⇒JAISTの強みとして、単なるAIをやるのではなく、セキュリティやインタラクション、ヒューマンという、この4つの分野をどう網羅的に見ることができるかを考えている。掛け算を1つにするのか、2つするのか、全て網羅して4つやってしまうのか、それは、本学に入ってくる学生の狙いによって変わる。

ターゲットによって、掛け算の仕方は色々な方法があると考えており、単なる足し算ではなく、様々な要素を重複してやっていくコンセプトで考えている。各分野の科目の履修だけではなく、共通科目との融合も用意しており、例えばAI倫理とか実際の社会で求められている技術もきちんと考えようということで計画している。

⇒社会人コースのマテリアル系は、既に社会で企業の方々が持っているデータを活用してもらい仕組みを作っているものなので、新たに入学してからデータを取り始めるということではなく、早期修了もできるかなと思う。新しいタイプの社会人の方の学位取得の背中を押すような形でできればいいなと考えている。

- ・産業界と連携した、博士人材育成制度は大変ユニークな制度で、今国を挙げて博士人材の育成・活用と言われている中、そのモデルケースとして大変注目に値するのではないか。博士後期課程の学生が在学中に、支援してもらえる企業と何らかのマッチングを計るような機会というのが大学の方で制度としてとっているのかということと、もし学生が就職後すぐに辞めてしまうような事情が発生した場合には、何らかの返還義務が発生するのかお聞かせ願いたい。

⇒修士課程の学生が、通常、就職活動をするタイミングで企業に対し就職活動をしてもらうが、この制度を手掛けてくれている企業と特別な機会をつくるということはない。企業からこの学生に対して、奨学金の費用負担をしてでも来ていただきたい。もしくは、学生をハブにして、企業側との共同研究等を発展させるということも可能。あるいは、インターンシップに入った後でも、マッチングの機会もあるので、その機会を使ってもらうことも可能。学生が就職後にすぐに辞めた場合は当然ペナルティ条項がある。通常5年を目途にして、それより短い期間で退職となった場合には、企業で契約上決められた金額を返してもらう形になるが、少し問題点も多いため、新しい制度に移ることに伴い、見直しを求められている状態である。

## 2 スタートアップ・エコシステム共創プログラムの採択について

内田特任教授から、スタートアップ・エコシステム共創プログラムの採択について、資料3に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

⇒以前から申し上げているが、大学発スタートアップという意味で、北陸は日本で有数の後進地域であり、3県合わせて日本全体の1.1%しかない状態である。これを単に後進地域と見るのか、あるいは隠れた宝が眠っているのかということだが、私は後者だと思っており、内田先生の協力のもと本学がリーダーシップを取れば、黒田

先生のいる金沢工業大学も含めて、地域の12大学と十分な量のスタートアップに向けての取組みが開始出来ると考えている。

北陸経済連合会でも北陸地域のスタートアップの重要性について毎回力を入れて話されているが、それに対しても応えることが出来ると考えている。もう1つ、北陸先端大が北陸地域のそれだけ多くの大学、高専に対して影響力を持って、取り組むことも我々の地域プレゼンスをあげるという意味では非常に大きなことだと考えている。こういう取組を通じて、本学を志望してくれる学生が増えれば良いということも考えている。

- ・おそらくこの事業が採択に至った背景には、これまでのJAISTの、マッチングハブのような産学連携事業の実績が背景にあるのではないかと思う。マッチングハブの中ではスタートアップを支援する枠組みが組み込まれていたと思うので、これまでの実績の成果をこの事業に有機的に連携させて、発展させてもらえたらと思う。

それからやはり重要なのは、北陸の地域ならではのユニークなコンセプトというのを延ばすということだと思う。地域ごとに特色を打ち出していると思うが、やはり震災復興ということが、これからの大きなテーマになると思うので、創造的復興というものを可能にするような事業プランをエンカレッジするようなものを設定するのが可能性として考えられるのかなと思う。これからも北陸地域の発展に向けて、社会的な課題を解決するという事業プランを後押し出来る仕組みにしていってもらえればと思う。

もう1つ、例えば北陸先端大は非常に有望な事業性のあるビジネスシーズが存在している。問題として、やはり財務等そういったことに関しては、専門的な知識がないがゆえに申請をためらってしてしまうケースも多分少くないと思う。大学の中には経営系の知識を持った先生方もいると思うので、そういう方々にも是非積極的に協力していただいて、経営面でのサポートというものをしっかり合わせていけるような体制をつくっていくことが課題になるのかなと思う。

⇒初めに、マッチングハブだが、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の申請に際して文科省に相談に行った際、文科省の参事官の方から、マッチングハブの経験もあるので、スタートアップの申請をしてはどうかと、向こうからお誘いいただいたという経緯もある。それからもう1点、経産省系のプログラムで北陸RDXを立ち上げたが、最近独立した株式会社としてRICHを立ち上げ、スタートアップに関して全面的にご協力いただいている。

こちらには経営面それから経済面のところの知見が揃っているので、我々が今まで進めてきたことを有機的に融合したスタートアップの活性化に繋がられるのではないかと考えている。

⇒マッチングハブについて、今年は11月12、13日に開催予定であるが、そこでこのプログラムとリンクしようということは考えている。それから、災害等の対応について、

募集分野の中で復興支援に実用可能なイノベティブな事業を起業する意欲的なスタートアップの提案を期待するということを記載しており、これらの申請を期待するということを我々からのメッセージとして出している。3つ目の経営面については、仰る通り金銭面だけでなく事務的なサポートが非常に重要で、事業化推進機関を仲間に入れるのが1つポイントになっている。スタートアッププレゼンターに、銀行で長い期間勤務されていた経営プロを採用して、サポートをしてもらうという計画を立てている。

- ・ 本学は設立されて30年、最初はパイロットスクール、要するに新しいことをやろうという大学として設立されたが、教育研究では他の大学も、新しいことをどんどんやり始めて、今そういう意味で色あせてきていると心配していた。社会貢献というのが1つの大きな柱になり、寺野学長の時代になって、社会貢献、特に地域連携のハブとして、非常に中心的な役割を果たされている。それに基づいて大きなプロジェクトを次々と始められ、さらに今回スタートアップにまで踏み込んだということで、JAISTが、新たなパイロットスクールとしてこれから飛び立っていくんじゃないかということに非常に大きな期待をしている。

## 議 事

### <審議事項>

- 1 第4期中期目標・中期計画における令和6年度年度計画について  
評価室長から、第4期中期目標・中期計画における令和6年度年度計画について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 2 令和6年度評価実施計画の策定について  
評価室長から、令和6年度評価実施計画の策定について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 3 令和6年度予算編成について  
会計課長から、令和6年度予算編成について、資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 4 学内規則の制定改廃
  - ・ 退職手当規則の一部改正について  
人事労務課長から、退職手当規則の一部改正について、資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
  - ・ 役員報酬規則の一部改正について  
人事労務課長から、役員報酬規則の一部改正について、資料8に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- ・ 職員の勤務時間、休暇等に関する規則等の一部改正について  
人事労務課長から、職員の勤務時間、休暇等に関する規則等の一部改正について、資料 9 に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- ・ 安全衛生管理規則等の一部改正について  
化学物質等総合安全管理室長から、安全衛生管理規則等の一部改正について、資料 10 に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### <報告事項>

- 1 令和 5 年度監事監査結果報告について  
三宅監事及び水野監事から、令和 5 年度監事監査結果報告について、資料 11 に基づき報告があった。
- 2 令和 5 年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について  
学長から、令和 5 年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について、資料 12 に基づき報告があった。
- 3 令和 6 年度国立大学関係予算（政府予算案）について  
会計課長から、令和 6 年度国立大学関係予算（政府予算案）について、資料 13 に基づき報告があった。
- 4 令和 6 年度運営費交付金予定額について  
会計課長から、令和 6 年度運営費交付金予定額について、資料 14 に基づき報告があった。
- 5 令和 5 年度補正予算（政府予算）について  
会計課長から、令和 5 年度補正予算（政府予算）について、資料 15 に基づき報告があった。
- 6 令和 5 年度運営費交付金の追加配分について  
会計課長から、令和 5 年度運営費交付金の追加配分について、資料 16 に基づき報告があった。
- 7 令和 5 年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」開催報告について  
学長から、令和 5 年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」開催報告について、資料 17 に基づき報告があった。
- 8 JAIST の教員人事（平成 31 年度～令和 5 年度）について

人事労務課長から、JAISTの教員人事（平成31年度～令和5年度）について、資料18に基づき報告があった。

9 最近の本学の活動状況について

広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料19に基づき報告があった。

<その他>

1 令和6年度経営協議会開催日程について

議長から、令和6年度経営協議会開催日程に基づき説明があった。

2 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和6年4月19日（金）に予定している旨の説明があった。

## 資料

- 1-1 第111回経営協議会議事要録（案）
  - 1-2 第112回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
  - 2-1 新しい研究組織とタスクフォース
  - 2-2 第4期3年目に向けた取組について～ 教育・学生支援～
  - 3 スタートアップ・エコシステム共創プログラム採択について
  - 4 第4期中期目標・中期計画における令和6年度年度計画について（案）
  - 5 令和6年度評価実施計画の策定について（案）
  - 6 令和6年度予算編成について
  - 7 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学職員退職手当規則の一部改正について（案）
  - 8 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学役員報酬規則の一部改正について（案）
  - 9 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学に勤務する職員の勤務時間、休暇等に関する規則等の一部改正について（案）
  - 10 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学安全衛生管理規則等の一部改正について（案）
  - 11 令和5年度監事監査結果報告書
  - 12 令和5年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告書
  - 13 令和6年度当初予算（政府予算案）について
  - 14 令和6年度運営費交付金予定額について
  - 15 令和5年度補正予算（政府予算）について
  - 16 令和5年度運営費交付金の追加配分について
  - 17 令和5年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」開催報告
  - 18 JAISTの教員人事（平成31年度～令和5年度）
  - 19 最近の本学の活動状況について
- 参考 令和6年度経営協議会開催日程